

## 院生研究室から

前巻の学生編集委員であった金谷和幸さんから引き継ぎ、今回の学生編集委員となり本コラムを担当させていただく大辻新恭です。

昨年度の人間健康研究科論集において、研究ノートを投稿させていただきました。私は文献研究を研究ノートにまとめる際に、人間健康研究科の様々な研究分野の先生方にご指導、ご鞭撻をいただきました。人間健康研究科には意欲的に研究できる環境が備わっており、また研究を支える施設である院生研究室には快適に研究生活を過ごせる設備が年々充実してきております。

私の研究分野は武道論ですが、特に学校教育・学校体育における武道が担う教育的意味について日々考究し、研究に取り組んでおります。

現在、この研究科の博士課程後期課程に所属し、研究活動において学術面を学び、また京都府の公立高校の講師として学校現場に携わることにより、教育現場における問題および課題を探っております。今後の展望としては、現場が必要としている部分に焦点を合わせた研究に取り組み、現場に還元できるように尽力していきたいと考えております。

先日、私が携わってきた高校の研究授業で、校内研究発表会がありました。特に私は、研究テーマを柔道に着眼するチーム（柔道部員の生徒たち）を主に指導をしておりました。この授業を通して私と生徒チーム、そして顧問の先生方で現場の問題や課題を探る中で、生徒たち自身は研究タイトルを「柔道競技において体が安定して相手を投げるにはどうするべきか」とし、研究に取り組んできました。研究発表として、とりわけ内股のバランス（水平）感覚からみた上級者の投げ込みの動作分析より考察した内容でした。

生徒たちは高校の授業では珍しい研究授業に取り組む中で、研究の難しさや厳しさを痛感しながらも、研究成果による達成感を味わうことができ、研究成果を人前で発表することの大変さを学ぶことができたと思います。私も生徒たちの研究発表に触れることができ、生徒とともに互いの研究、教育の喜びを分かち合うことができたと感じています。

最後に、人間健康研究科論集のさらなる充実と、人間健康研究科の益々の発展を心より祈っております。

人間健康研究科博士課程後期課程  
大辻新恭